

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

様式 C-3-2 【記入例】（電子申請システム対応用）

令和6年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）次年度使用申請書兼変更交付申請書

令和6年〇月〇〇日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

		機関番号	1	2	3	4	5
所属研究機関	所在地	〒〇〇〇-〇〇〇〇 東京都〇〇区〇〇2-5-1					
	名称	〇〇大学					
	機関の長	学長・〇〇 〇〇					
	経費管理担当者	〇〇課△△係長・〇〇 〇〇					
研究代表者	部局	〇〇学部					
	職	教授					
	氏名	〇〇 〇〇					

令和5年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）について、研究費に未使用額が生じたので、下記のとおり次年度使用を申請するとともに、承認された際には、次のとおり研究を実施したいので、あわせて交付を申請します。

なお、当該未使用額は補助事業を誠実に遂行した結果生じたものであり、令和6年度に使用することによって、より研究が進展することが見込まれます。また、交付された補助金は、補助条件に従い適正に使用します。

記

1. 研究種目名 基盤研究（A）（一般） 2. 課題番号 1 2 H 3 4 5 6 7

3. 研究課題名 〇〇〇に関する研究

4. 研究期間 令和4年度～令和8年度 5. 領域番号・区分 —

6. 令和5年度補助金の使用状況及び次年度使用希望額（直接経費）（円）

		直接経費
令和5年度補助金の使用状況	既受領額	26,600,000
	実支出額	21,999,600
	うち繰越承認額	3,000,000
	未使用額	1,600,400
次年度使用希望額		1,600,000

7. 補助金額（交付予定額）

	直接経費					間接経費	合計
	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	計		
変更前の交付額	10,000,000	1,600,000	1,500,000	13,500,000	26,600,000	7,980,000	34,580,000
追加配分額	1,600,000	0	0	0	1,600,000	0	1,600,000
変更後の交付予定額	11,600,000	1,600,000	1,500,000	13,500,000	28,200,000	7,980,000	36,180,000

万円未満を切り捨てて入力すること（5万円以上）。

間接経費の次年度使用：0円

「（調整金による追加配分により実施する研究計画）」に入力した内容と、追加配分額の内訳に矛盾がないことを確認すること。

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

9. 次年度使用に至る経緯

- ① 繰越制度の要件に合致せず繰越制度を利用できない研究費
 調達方法の工夫などにより、当初計画より経費の節約ができたため。

10. 調整金の追加配分により実施する研究計画

当初計画の〇〇〇〇の▽▽▽▽分析に加えて、調整金による追加配分により□□□を用いた△△△との比較分析を令和6年11月から追加で行うことによって、〇〇〇〇の◇◇◇◇をより詳細に解明することが可能となる。

変更交付決定日（8月中旬（予定））以降の追加配分により実施する研究内容について当初の研究計画との差異がわかるように入力すること。

11. 主要な物品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様（製造会社名・型）	数量	単価（円）	金額（円）	納入予定時期
ワークステーション	LVBXXXX-TK/RN	1	500,000	500,000	令和6年8月
※交付申請書等から変更のないものは、交付申請書と同様に入力すること					
〇〇〇〇設備	〇〇〇〇〇	〇	〇	(500,000)	令和6年11月
※今回申請の調整金により交付申請書に記載の設備備品を追加して購入する場合、数量欄：追加購入分も含めた今年度に購入する総数量を入力すること。金額欄上段：今回申請の調整金から充当する金額が（ ）書きで表示される。					
△△△				1,000,000	
金額欄中段：今年度に購入する設備備品の総額が表示される。なお、「納入予定時期」欄には、追加購入分の購入時期を入力すること。					
				(500,000)	令和6年12月
				500,000	
□□□設備	□□□□□			(500,000)	令和7年1月
※今回申請の調整金により新たに設備備品を購入する場合、金額欄上段：今回申請の調整金から充当する金額が（ ）書きで表示される。金額欄中段：設備備品の総額が表示される。					
				10,000,000	
				(7,000,000)	
※今回申請の調整金により共用設備の購入を行う場合、数量欄：購入する設備備品の数量を入力すること。金額欄上段：今回申請の調整金から充当する金額が（ ）書きで表示される。金額欄中段：設備備品の総額を表示される。金額欄下段：本課題で負担する金額が（ ）書きで表示される。（当該補助事業で負担する額が50万円未満であっても、価格が50万円以上の場合には、当該設備備品について入力すること。）					
※消耗品等についても、上記に準じて明細を明らかにすること。					

(別添理由書)

次年度使用に至る具体的な理由

実験で使用する試薬について、研究室単位で個別に発注するのではなく、大学内で必要な量を一括して購入する方法に変更した結果、当初計画より経費を大幅に節約することができたため、未使用額が発生した。

未使用額が発生した経緯がわかるように入力すること。また、「次年度使用に至る経緯」で②を選択した場合は、繰越事由が発生した時期を入力すること（令和6年3月2日以降であることが必要）。